京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年 紀元二千五百七十年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月十三錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通(電話六六三)
發行所 京城新報社

雜報

鯨屋伊右衛門 翁の鯨談(二)

(四)鯨の鼻 は頭の頂にあつて穴が一つのものと二つのものとある、潮吹く時一筋のものと二筋のものとある此潮の吹き方に依つて遠くから鯨の種類を見別けるのである、此鼻は水中に沈む時には辨膜の立派に並んだのがチャーンと閉る樣に爲つて、呼吸は肺臟から直ぐに鼻の孔に出る樣になつてゐる

(五)鯨の耳 は外面には出てゐないが眼から一尺計り後の方に附いて鼻の孔に通じた內耳があつて、聽神經の本部に届いてゐるから響は能く聞へるのである。

(六)鯨の食道 は體の大きいのに比べると、至つて小さなもので直徑僅に一寸二分位、之は有鬚鯨族に限るので、荒喰をする有齒鯨族の抹香鯨などはまだ少し大きい。

(七)鯨に脂肪の必要 元來鯨族に白皮其他脂肪層が多くて脊美、抹香などの大きなものになると白皮の厚さが普通の鯨より倍以上(一尺乃至二尺)もあつて一頭の皮から二百石の油を採る事は珍らしくないのは、畢竟海中の生存上體温を保つ爲めと體の重を減らす爲めである。

(八)鯨の睡眠 一度私は太平洋のフレンシー群島に漁にいつて居た時其所の海上で晝間鯨の浮いて眠つて居るのを見たとがある、鯨は夜になると斯う云ふ風にして何所かで眠るのではないかと思ふた。

(九)鯨の泳ぐ速力 佛國のラシェッドの説では鯨の一分間の泳ぐ速力は六町位で貿易風より速いから一日に十二時間の睡眠時間を與へても世界を一周するに僅四十七日間、北極から南極迄の間を二十四日間で旅行する事が出來ると云つてゐる、併して食餌を追驅けて行く時と、滿腹の時と、愉快に遊戯る時と、怒つて狂ふ時と、場合に依つて遲速があろふと思ふ、諾威式では捕鯨船の速力を一時間十浬以上出す樣に造つて居るのは鯨を追驅けるのと負傷鯨が狂廻つて逃げる時に間に合ふ樣、多年の經驗上から調べたものであろう

(一〇)鯨の乳房と陰部 鯨の下腹には臍、乳、生殖器、糞門と續いて居る而して生殖器と糞門とは一尺四五寸も離れてゐる、左右に並んだ二つの乳房は色白く形は圓いもので此肉の味は却々旨い、乳房の處に竪の皺があつて、乳頭は其內に隱れてゐる、引出して見ると、茄子位の大きさである、陰莖の長一丈四五尺廻り三尺牛の陽物に似て末細く、本の左右に陰嚢があり、常は此に藏つてゐる、牝牡の生殖器即陰處は凡て貝と云つたもので其內を又區別して、陰莖をタケリ、陰嚢をキンツウ、牝鯨の產門をフケリ其外、腸を內身、尾鰭をヲバチ、胸鰭をバタッ、脊鰭をイボ齒をヒゲ又はヲサ舌サヘヅリ鬚の着根をエンパ、下腮をハシ、口を棚の內、唇を棚と云ふ樣に種々の異つた名が附けてある。

(一一)鯨の交尾 能く見た事がある春の始頃、海上で牡鯨が牝鯨を探がして泳いでゐるのを、無論交尾期であろう其牡鯨か牝鯨の群に出會ふと、其內の一頭が他の群と離れて牝と一所になり新婚旅行と云ふ譯で並んで泳ぎ始める、而して長い鰭で互に輕く撫で合ふのは、切なる愛情を表はすもので、食餌も一つに食べると云ふ具合に非常に仲睦じく、此體の大きい動物が交互に盛んに飛上つたり、盛んに跳込んだりして、傍に見て居ると、廻り八方は非常に泡立つて來る、是は人間の遊戯ると同じ樣に遊戯けてゐるので、交尾の時は牝牡が横に爲つて、胸と尾とを合せ下に爲つた方の胸鰭で水を切つて片方の胸鰭は宙に二枚並んで立てゝ之を俗に立羽立ちと唱へて居る。

●島人の施療に就て

常に警備船に搭乘し全南各島嶼沿岸に出張住民の無料施療を爲せる熊野木浦警備所囑託醫は曰く以前郡守等に於て最初は無料施療を爲す旨を云ひ置き乍ら投藥後金錢を出さしむるなどのことを爲したる例も少なからざりしやにて從つて今々島民に施療しやると言ひ聞かするも最初の間は先づ金錢の點に於て恐怖を抱き居るものゝ如くにて次には金錢を取らざることを信じて後も外科手術等に就ては餘程恐怖の色あるが如し元來韓人は草根木皮を以て常藥とし手術の如きは殆ど前例無きこととして何等か手術の場合には黒山の如く四周に集り來りて熱心に見物し居れり併し乍ら今日にては既に各地共日人が全く疑惑無く慈善的に施療するものなるを信ぜしが如く吾等一行の到るや頗る歡迎の意を表し其去らんとするや島民全部海岸に見送り船影の隱るゝ迄停立せる等誠意感謝の意を表したる所も少からざりし去れば吾等の施療は彼等韓民に對し日韓の親善を圖る上に於て頗る好影響を與ふべしと信ず云々

静躁昏明

▲當世醫者氣質

昔者「氣から病が出るわいな」と云つた頃は醫は仁術と稱せられた、デ患者は醫者の匙加減よりも先づ其仁慈の心を頼むだものだ、然るに近代醫術の進歩に反比例して醫師の心術は退歩した醫を仁術などゝは坊子乃至茶筅頭の醫者を煽動た時昔の流行語として今では一笑に附せらるゝ始末、唯、今も昔に異らぬは彼等に對する先生の尊稱である、其先生の中に前の仁川病院長、現龍山醫院囑托醫學士松村二生といふ先生がある、至つて篤學の士で目下學位請求の論文製造中であると傳へられてゐる、同時に此の先生は近代の醫學に造詣深き丈け夫れだけ滿足に當世醫者氣質を倣へて居るらしい、「何に大丈夫だよ」と請合ふた患者が死んだ、先生とて神で無いからには斯る誤診は誠に已むを得ざることとして、其の患者が今や斷末魔の苦しみを見て家人は神よりも佛よりもと先生の許に驅けつけた、先生曰く「乃公は往診はしないよ」と、患者は死んだ、神よ願くば先生を博士たらしめよ、

●江原道の徴税状況

江原道蔚珍、平海、三渉地方は從來徴税成績不良の爲め過般元山財務監督局より特に主事を出張せしめて鋭意徴收に勸めたる結果蔚珍、平海二郡は大約納入したるも三渉郡は由來人氣狡猾にして領收員中には往々公金を私用する者すらありて納入は殆んど不可能なれば己を得ず麥の收穫期迄で延期したり

●韓國平和協會成立

日韓の親善、教育の普及、宗教の統一殖產の振興、實業の發達抔と嗚呼がましくも唱道し沈日澤の肝煎にて計畫せる平和協會は十日午後一時より中部豆錫洞韓憲履方に同志四十七名集合し協議する處あり其結果會名を韓國平和協會と標榜し十一箇條の規則案を議決して後役員のため人々を推し茲に成立を告げたり 總裁閔泳奎、副總裁金允植、會長南廷哲、副會長李重夏、總務長沈日澤 理事長金靖奎、總務韓奎履 薦りに名を衒ふ韓人の性格遺憾なく發揮せられ又其呑氣さ加減與に平和の名に負かずといふべし

●釜山出入貨物比較

先月中釜山輸出入の總額を郵商社外船對連絡船比較をして現はしたる者如左

輸出貨物

郵	九四八個	鐵道院連絡船	
商	一一〇九二個	總計	三二四五七
社外	七八九九個	內連帶	一三九一〇
計	一九九四〇個	釜山扱	一八五四五

輸入貨物

郵	一二〇八個	鐵道院連絡船	
商	一二五八八個	總計	六一〇二〇
外	二七三七五個	內 連帶	四五一二二
石炭	四六九個	釜山扱	一五八九九

◎新刊紹介

▲日本少年(六月號) スッカリ夏向きの涼しさうな記事が聚めてある(東京々橋區實業之日本社十一錢)

▲少女の友(六月號) 日本少年の妹でよく似た兄妹だと人が云ふ(發行所定價同上)

▲東京經濟雜誌(一五四五號)劈頭「金融及有價證券市況」如例次に「韓國統監の更迭」を載す讀者は何時見ても何かの利益を此の雜誌より漁り得るであらう(東京々橋區彌左衛門町同社十二錢)

▲刑事法評林(二卷六號) 評林に「不祥の聲」と題して「被告人の口より拷問の一語を聞くは實に文明の汚辱、聖代の不祥なり」とし近時頻々此の事ある慨し司法官吏に警告する處あり此の外平沼法學博士の「感化事業に就て」花井博士の「婦人の犯罪に就て」安住法學士の「韓國刑法一班」など(六月五日東市本郷一丁目啓成社發行郵税共十六錢)

▲湖南鐵道と群山(非賣品) 群山の位置及形勢より説起して同理事廳管內の風土、面積、人口、海陸の交通、產業貿易經濟等頗ぶる綿密に記述されてある同地の南韓鐵道期成同盟會の編纂に係る

▲間島產業調査書 統監府臨時間島派出所殘務整理所に於て三月二十五日發行されたものである三編に分ちて第一編が農事調査書、第二編が地質及鑛產調査書、第三編が商業調査書と成つて精細なる調査が遂げられてゐるこれで間島派出所の辛勞は察せらるゝナンノ殺したのは派出所の匙じやないかね閑の多い人は死兒の齢を數へて居るも可からう

日本銘刀傳

第百卅七席 津田近江之守(四一) 邑井一講演

助廣は女が尋ねて來たから見ればれそうではなくして、妹のれようでございますから驚いた 助『ヤッれようさんか如何して……マア〳〵此方へれ寄んなさい れようは耻かしさうに揉手をしながら よ『旦那樣御機嫌克う…… 助『ヤア克く來て呉れた私アれ前さんの顏見た位機嫌の克いことはないサアずつと此方へ…… よ『有難うございます、旦那樣誠に御無沙汰をしまして、斯んな事を申すは恐入りますが、何日ぞや、姉かられ金子を拜借致しまして、其金も未だ御返還し申しませぬで、復た此地で二十兩と云ふ大金を拜借致しましたが、如何も本夫が未だに渡世に有付きませぬので、遂い〳〵延引に相成りまして誠にれ申譯がございませぬが、何卒か…… 助『コレ〳〵れようさん私はれ前さんの顏見たばかりで催促をしましたかい よ『ハイ…… 助『元來貸す時にれ前さんへも言つたじやありませんか、婦人に金子を貸して取らうと云ふやうな、爾んな吝嗇じやありませぬれ前さんに金子を貸す時に返還す氣があれば無沙汰になるに依つて返還さぬでも宜いと言つたじやアありませぬか彼金はれ前さんに貸したのではない進上たのですよ よ『デモ田部が御催促を…… 助『何で私が催促をコレれようさん私は二十兩や三十兩の金子を一遍でも催促をするやうな爾んな吝嗇な者じやない、マア一杯飲んでれ呉れ、と相手欲やの所へ、一旦斷念めたとは云ひながら年來戀ひ慕ひし、れようが來たのでございますから、大恐悦でれように酌をさせて、色々噺話を致たして居ります 助『時にれようさん丁度好い所へ來なすつた京都の金波樓で、今度新座敷を拵へて其座敷開きで、茲に切符が來て居るが京坂の粹人などが往つて踊などをやつて大變盛大な景氣のやうだから、私も往つて見たいと思つて居るが、同伴が無くつて困つて居つた所だ如何ですれようさん、直ぐ歸つて來るのだから、私と一緒に京都へ往つて見ませぬか よ『ハイ有難ふございますが、子供もある事でございますから、我家へ歸つて本夫へ斷りまして…… 助『斷るには及ばないじやないか、何か三藏さんはれ前さんが、此家へ來たのを知つてるのかへ よ『それは妾が三藏に使ひで參堂りました 助『構んなら宜いじやありませんか、金子の事は心配しなくつても宜い、金子は遣るから一寸京都へ私と一緒にれ出なさい よ『デモ本夫へ…… 助『それでは三藏さんへれ前さんから、手紙を書いてれ遣りなさい……コレ……硯函を持つて來い、と女中に吩咐ける、れようは本夫に對しては濟ぬ事とは思ひましたが、借金のある事でもあり無下に謝絶る譯にもいきませぬし、又直ぐ歸つて來るのであるから歸つてから本夫に謝罪をしやうと、早速れようは斯う〳〵云ふ譯で餘義なく助廣さんに伴れられて西京の金波樓の座敷開きに往つて、一寸と顏さへ出せば直ぐ歸つて來ますからと、短文に手紙を認ため三藏方へ若者を以て持たして遣りました、助廣は大恐悦びで直すに駕籠を命じまして、れようと京都へ往つたれさうは此話を聽いて口惜がり旦那は今夜は到底も來ないと自分は嫉妬半分で取つて置いた、酒をグビリ〳〵引飲けて、調理へて置いた肴を散らし、殘つた肴は其處らへ拋棄つて了つて、アー口惜しいと膝を崩してヂリ〳〵として居る途端に、表の戸をトン〳〵トン〳〵 さ『誰方でございます 〇『ヲイ開けてれ呉なさいと、這入つて來たのは一人の立派な男 さ『是れは入らつしやいまし、誰方樣でございます『御免下さい、私は助廣の弟子助直と申す者でございます さ『オヽ左樣でございますか、何卒此方へ…… 直『御免なさいまし、時に今日上りましたのは外でもございません、師匠の助廣が何うしたことか近來道樂を始めまして誠にハヤ言語道斷の次第でございます、唯今も或所から私まで通達がありまして夫ある婦人を連れて京へ見物に參つたとやら、飛んでもない事でございます、直ぐに追手を出しましたから明朝迄には取押ねて連れて參る筈、手前から意見して斷然手を切らせる事に致します、就いては貴女も誠にれ氣の毒樣でございますが、是れも前世の約束と諦らめて今日限りブッツリと諦らめて手を切つて下さいましと、金子百兩を前に並らべ 直『是れはホンの私の志許りでござゐます、何卒納めし下さいまし」と言はれてれさうも今更致方がない」





頭本元貞氏の演說

經濟協會に於ける

余は自分が新聞記者であるに拘はらず新聞記事が兎角針小棒大に流ゝ悪弊を認むるものである、殊に遠國より來る新聞種に就ては殆んど事の眞相を傳ふるものがない爲一部の記事を見た丈で種々の想像を加へると誤解より誤解が生じてドーにもならぬ事になる、現に米國に於ける排日說の加き乃ちソレで予は諸君が斯る新聞記事を信せられざる事を望むのである。

今や米國人の日韓關係に對する態度は極めて良好である、米國人の爲には日韓合併問題の如き念頭に置かれて居らぬ、のみならず或一部米人の如きはナゼ日本が早く合併せぬかを笑つて居る位である、只り政治上のみならず經濟上に於ても米人は韓國にあまり重きを置いて居らぬのである、何となれば米國と韓國との貿易は僅かなものであつて到底問題にならぬからである、市原總裁の話に因るとヨーロッパからは韓銀に向かつてコルレスを申込んで來るものがあるが米國からはあまり無いと左もあるべき事にて韓銀が米貨でも借りぬ以上米國人にとつては韓銀などはあつても無くても良いのである。

政治上經濟上に於て米國人が半島を重要視して居らぬ事は事實である、之れに反して彼等は半島基督教の布教及び日本の殖民事業に就いて特別の注意を拂ひつゝあることは事實である、而して右の如く特別の注意を拂ひつゝあるものは米國に於ける一般の人民ではなく實は政治家學者等の專門家であるのである

先づ始めは宣教師の事から言はんに目下半島には多數の米人宣教師が入込で基督教の布教に勉めて居る、若しも幸にして宣教師のやることと日本のやることゝが一致して韓人開發に資するならば何も問題はないが今日の處はドーモ宣教師の方角と日本側の方角とが多少向を異にし居るような傾がある、抑米人否歐米派遣宣教師の傳道事業は各方面に中々重大な關係を有つて居るのであつて日本側にして彼等の傳道事業に對し友誼的ならざる態度を示す等の事は決して好ましからざる事である、彼等宣教師は韓人に向かつて德育智育を爲さんが爲めに來て居る、而して元は韓人許りであつたが今は韓人よりも優勢なる日本人が來て居る、此優勢なる日本人中の或者が往々にして韓人を虐待する、外人宣教師が之等の事實を見てダマつて居れぬのは彼等の職業柄當然である、優者なる日本人が弱者なる韓人を窘じめる、其窘しめられてる弱者に宣教師が同情を寄するは不思議でも何でもない、而るに或向では宣教師が韓人に同情するからとて直ぐに**排日**だと噪ぐ之はホントに間違つて居ることゝ云はねばならぬ。

次に在半島宣教師に關する邦人新聞の記事を米國に在つて見て居ると實に其記事を書いた**新聞記者の狭量と偏見**とに呆れざるを得ない事が數次ある、日本人の予にして而り、米國人の呆れることは想像以上である、ドーカ在韓同胞は官民共に我の**大陸に於ける責任を自覺**し大國民の**襟度**を以て宣教師に對する樣にせられたいのである。

之れで宣教師に就ての話は仕舞として之から米國の經濟事情に就て述べんに米國の今日は保護貿易の結果國富を增したる事は事實だがソレと同時に大資本家の横暴に苦しめられつゝあるのである、一言にして云へば米國のトラスト及大資本家は今や政府及其內閣員をさへ左右し居り、タフト大統領やノックス國務卿等皆大資本家の鼻息を窺ひ若しくは頤使に任じつゝあるのである右に就ては國民多數の反對論多く共和黨は正に民心を失せんとする有樣を呈して居る、久敷政權を得ざりし民主黨は此機會に於て共和黨の勢力を挫かんと大に勉め居るものから現政府の不評は日日增して來る樣である、さればこそ共和黨自身も敵の武器を藉りて自黨の勢力を維持せんとし彼のルーズベルトをまた大統領となして大資本家征伐をなさしめんとしつゝあるのである、思ふに遠からず米國には大資本家征伐のこと事實として現はれん斯る場合ともならば必ずや經濟上の變動を起すを免れず之を以て是を見ると米國は今正に經濟上の危機にある者なり云々

三浦氏演說

頭本君今夕の御演說は自分にとつて新智識の感じがあつた、斯る有益なことを伺ふことが出來たのは自分にとつて非常に幸であつた、只茲に反對ではないが一言申述べて置きたいのは宣敎師に對する大國民の襟度と云ふ事に就てだ。

一體在韓外人宣敎師は治外法權を持つて居る、彼等は此治外法權の下に動もすれば面倒を引起すことをやる、彼等が眞實布教のみをして居るのなら問題は起らぬ、而し時どしては軌道を外れた事をやるものもある、斯る次第なれば彼等に臨むに大國民の襟度のみを以てしては居られぬ場合もある、ドーカ頭本君には米國に歸られたら在韓宣敎師に關する眞相を彼の國人に誤解のない樣傳へて戴きたい、自分は信者ではないが基督教を良き教と認めて居る、されば我日本側が眞實基督教を良き者と信じて之に對する方法をやるならば宜しい、只だ一時の面倒を避けんが爲に姑息の對宣敎師策などをやるなら、ソレハ良くないと思ふ、右は序を以て一寸一言す云々

東京電報

▲海相元帥參內

齋藤海相伊東元帥山本海軍大將は本日午前十時三十分相前後して參內十一時退出したり(十一日)

▲遠洋漁業事件

昨年九月より日米間の懸案となれる天祐丸開盛丸拿捕事件は米國裁判所に於て審理中なるが米國政府はボートを本船の延長と見なしボートの犯罪は本船の犯罪なりと主張しボート領海內に入りたる理由を以て兩船を沒收せんと請求せり最近の仲裁裁判例は米國政府の主張を認めず本船は所屬ボートの犯罪に責任なしと判決せり我政府は是と同樣の見解にて米國政府と爭ひつゝある落着迄には多少の時日を要するべし(同上)

▲文武官の叙位式

本日午前十時宮中に於て叙位式を行はれ文武官華族二百六十一名に對し夫々叙位の御沙汰ありたり(同上)

叙從二位 正三位男爵 有地品之允
叙正三位(以下略) 從三位 大森鐘一

▲議院建築調査會

本月末第一回を開く筈にて大藏省臨時建築部は準備中なるが會場は總相邸なるべく來期議會召集迄に調査終了の見込なるも設計其他に技術者中に議論あり或は明年迄延期さるゝやも知れず

▲議院建築費不足

先年の調査によれば一千萬圓なるも今日物價騰貴にて不足を生じ少くも二倍を要す然して最近の外國議院の建築費は一坪約四千圓に上り此割合に以てする時は建築坪數約六千坪にて工事費六千四百萬圓を要する計算なり(同上)

▲本年度製艦數

本年中に起工し若くは起工の準備に着手すべき我が艦艇は先づ艦艇補充費に於て裝甲巡洋艦(排水量一万八千五百噸)一隻、大形驅逐艦一隻驅逐艦二隻又た補充艦艇費に於て裝甲巡洋艦一隻(排水量一萬八千五百噸)二等巡洋艦(排水量五千噸)筑摩、平戸、矢矧と命名せらるべきもの大形驅逐艦一隻潜水艇一隻等の外更らに從來造艦費の支辨により裝甲巡洋艦二隻三等巡洋艦三隻大形驅逐艦二隻潜水艇一隻驅逐艦二隻總計十隻と決定せり

▲軍艦製造注文

本年度注文すべき軍艦は海軍省にて英國に對し夫々製艦材料注文中にて佐世保海軍工廠は既に三等巡洋艦筑摩の龍骨を据付けたり尚ほ自餘の二等巡洋艦は追々川崎、三菱兩造船所に於て造艦せらるべく其の他二隻裝甲巡洋艦も呉、横須賀の兩海軍工廠に於て建造の豫定なり而して艦艇補充費支辨に係る計劃建艦總數は之れを以て完了し所謂既定第三期海軍擴張費に依る計劃建艦は唯戰艦(排水量二万百噸)一隻裝甲巡洋艦(一万八千五百噸)一、二等巡洋艦(四千八百噸)各一隻を剩すのみなり(同上)

▲韓國と政友會

政友會滿韓調査會は目下滿洲方面に對し調査進行中なるが韓國方面に就ては過日同會委員袂を聯ねて首相及外相を訪問し明確なる言質を得たるを以て愈々其處分の近かるべきを期待し大勢の決定するまでは茲に觀望して該調査を進行せしめぬ事に內定せり

▲官制改正餘波

日韓合邦の聲漸やく切迫し來れると同時に統監府官制改正並びに吏員大更迭も近く實現さるべき模樣なり此の餘波內地々方長官にも多少の異動を來すべく十日山縣副統監及び安廣法制局長官は平田內務大臣と大臣室に於て協議せるは右の要談なりしと確聞す

▲新統監披露宴

新統監寺內子爵は來る十五日自邸に於て統監就職披露宴を兼ね留別會を開き各元老及び貴顯三百名を招待し午餐會を催し終つて盛大なる園遊會に移る筈なり(同上)

▲有吉知事の上京

有吉知事は電命にて急遽東上し內務省に出頭す

上海電報

▲長沙又々不穩

清國長沙暴動事件に就き政府の善後策に反對を唱ふるものあり又もや不穩の狀態に陷れり(十三日)

雜報

警察協會の成立

既報の如く韓國警察協會は一昨十一日廣道館に於て發會式を擧行せり櫻井警務局長發起人として其主趣を述べ次いで中野警務課長を假りに議長として規則書を議し更に滿場一致を以て櫻井局長を委員長に推擧せり尚ほ會には岡次官を副會長には松井警務局長若林警視總監規程通り就職したり今其規則書の概要を掲ぐるに左の如し

一、本會は警察の事務に從事する者の學術武藝を獎勵し德義を涵養し警察知識の進歩を計り兼て其親睦を修むるを以て目的とす
一、本部を京城に支部を各道警察部所在地に置く
一、本會の事業は左の如し
一、雜誌を發行し圖書を出版する事
二、通常會員死亡者遺族又は病傷者に共濟金を贈與する事
三、功勞者又は偉績者の名譽を表彰する事
四、職務上の死亡者の爲に祭祀を行ふ事
五、警察官講習會を開催する事
六、巡回文庫を設くる事
一、會員は名譽會員特別會員通常會員の三種に別つ
一、役員は會長一副會長二委員長一委員若干支部長若干幹事二書記若干

尚ほ該規則の修正は委員會にて決すべく委員は委員長の指名に一任する事となれり

北韓方面の活氣

北韓方面就中淸津港は特定地輸出入品通關免税法律發布以來其効果著しく邦人の渡來者逐月增加し之を該法施行以前に比すれば約二倍餘の增加を示めし人氣頗る旺盛を極め居れり殊に數日前より韓國處分問題に伴ふ北韓方面の防備は愈々嚴重に警戒せられ之が要衝に當れる淸津港は一層出入に頻繁を來し戰後未曾有の壯觀を呈せりといふ

平壤日報の奇禍

去る十二日發行の平壤日報は合邦問題に關する記事を掲げたる爲め同地理事官より其發賣頒布を禁止されたり

●公州街道の大改修 鳥致院より公州に通ずる街路大改修は工費五六万圓にして國庫補助三萬圓を受くる事となり不日着手の運びに至り來る二十日頃入札する由然して地方費中既定方をさるにより工程實際の費用は僅に十萬圓に達すべく竣成の曉は忠南繁榮に多大の効果あるべしと

●慶北大邱の孔子教 大邱にては過般孔子教を設立し其後同會委員等は普く各郡に主意書を配付して勸誘に努めつゝありしが入會者非常に多く現に四百五十餘名を算するの盛況なりと而して之が爲め耶蘇教を脫會するもの亦尠からざる由

●居所不明の欠逋者 又々度支部は居所不明の欠逋者二十一名此金額三萬六千百九十八圓七十五錢七厘を告示したり欠逋者は公示日より三十日以內に中央金庫に納入すべしと

●警視廳の署長會議 警視廳は十三日午後一時より各署長を召集して官房主理及各課長並に皇宮警視等列席し定例會議を開けり

●外國記者の來遊 米國にて發刊するアスソシエーテッドプレッス記者アールケンヂー氏は目下滿洲巡視中なるが東京へ赴く途次廿日頃入京すべしと

●六十五聯隊演習 步兵第六十五聯隊第三中隊は十七日午後七時より練兵場附近に於て空砲使用夜間演習を行ふ

●司税局員の宴會 十三日午後六時より度支部司税局員七十餘名は京城ホテルに於て懇親の宴を開催する筈なり

●民長と會頭歸朝 仁川岩崎民長及び加來商業會議所會頭の兩氏は昨十三日二番列車にて歸朝の途に就きたりと

●高橋檢事の入京 去る十一日午後木浦より仁川に入港し安東丸にて入京

●入東代議士入京 代議士入東可海氏は去る十一日入京天眞樓に投宿せり

●福原大佐の出張 太田守備聯隊長福原大佐は十二日午前釜山に出張せり

●叙任辭令 左の通り辭令ありたり

任土地調査局書記官叙奏任官一等 佐竹義準
度支部主事 豐田多賀雄
任度支部事務官叙奏任官四等

京城經濟協會例會

一昨十一日午後七時より京城ホテルに於て經濟協會例會を開催す來會者六十名偶入京中なる元セウル、プレッス社長頭本元貞、十八銀行副頭取永見寛二兩氏を招待して晩餐を共にし了つて峯岸幹事より會務の報告あり續いて市原幹事長賓客に對し一切の挨拶を爲し例に依り洒落なる口調もて永見、頭本兩氏の演說を請へり永見氏先づ起つて韓國在留首腦者の會合とも稱すべき經濟協會の招待を受けたるを感謝し「予は既に數回京城を訪へり今又五年目にして來京せしが其都度變化の太だしく邦人發展の狀著しきに寧ろ一驚を喫するに馴れたり而かも今次は特に諸君に依り好土産を得て歸らんと期せしに意外にも反つて入國税を徴せられんとす去れど之れを制規とせば誠に已むを得ざらん唯了が囊底甚だ乏しきに依り予は頭本氏に納收を依頼せんのみ」とて市原幹事長をして「約束手形として次の機會まで預かり置かん」と宣せしめし程巧妙に脫通し次に頭本氏は「予は一年振りに京城に返へりて早々此席に引出され税金を課せらるゝに會ふ殊に永見氏に對する賦課をも負擔せしめらるゝは迷惑なり」と卿ちつ予は客年實業團渡來の際所謂赤毛布の一人として三ケ月間米國を巡遊し大小五十余個所の都市に於て各階級の人士の歡迎を受け到處演說の交換を爲し具さに長演說を聴くの苦痛を嘗めたり故に予は諸君に同情を以て簡單に演べん」と前置して日韓關係に對する米人の感情と日本人の注意すべき事項及米國の經濟狀態に關して大要別項の如き演說を試み三浦彌五郎氏又別項記載の如き批評を試み頭本氏再び起つて對ふる處あり懇て散會せしは十一時に垂んとする頃なりき

公園引繼の不調

過般開園式を擧行したる南大門外の旭公園は其後發起者より同公園を民團に引繼がんことを申出たるに依り民團にては數日前協議會を開き協議したるに發起者側にては公園の工事費二千七百餘圓を民團より提供すべしと云ひ民團側にては工事費には有志者の寄附金千九百餘圓あり右寄附金を差引けば發起者の負擔は千八百圓に過ぎず即ち此殘額を交附すれば可なりと云ひ遂ひに協定ならざりしが二十日頃臨時民會を開きて本問題を附議することに決したり

道路豫定地の禁令

內部は告示第六十一號を以て左記區域內道路用地買收終了するまで土地地上物件の賣買典質及家屋其の他工作物の新造等を行ふ事を禁止す

一南大門より南大門鐵道停車場に至る道路及同停車場より麻浦街道鐵道踏切に至る道路の包圍區域內一面
一南大門外旭公園入口より南大門鐵道停車場前南大門郵便局に至る間兩側路端より二十間通り

●民團協議會の弊害 京城民團議員等は相互間の意志疏通を計り本會議の無事進行を期せん爲め協議會なるものを設け大抵の問題は總て斯會に付し隨つて該會は恰かも本會の準備會の如き觀を呈し既に一種の慣例を成すに到れり素より其主趣たる必ずしも不可なるに非ず然れども之が濫開の傾向あるに於ては其弊害決して尠少ならざるべしとて議員の多數者は潛かに其撤廢を期圖し居れり今其言ふ處によれば協議會は法律上何等の効力を有せず謂はゞ私的會合たるに過ぎざるなり元來民團行政上の事項に就ては既に民會の設けありて幾度にても之を召集し開催するを得べく然るに本會にては兎角議論沸騰し圓滿に進行し得べからざるの虞ありとて瑣細の些末事に到るまで之を提供し協議會を煩はすが如きは所謂議員の權能を蔑視する甚しきのみならず一面民長として其無能を表白するものなり現に古城民長就職後は一層其開催多く一箇月數回以上に涉る事あり氏は漫りに事無かれ主義を以て民長の能事なるが如く心得居るも這は微々たる町村長の爲すべき事にして苟くも大民團の民長たる以上は少しく公議權の如何をも辯へ正々堂々吾等議員に臨まざるべからずと云ふに在りて過日來屢々協議會の流會となれるは此反響なりしと云ふ

●鈴木騎兵大佐視察 參謀本部騎兵課大佐鈴木莊六氏は部員石井、樺の兩氏を隨へ來る廿二三日頃渡韓先づ北韓を視察し七月上旬入京の豫定なる旨其の筋に通知ありたり

●膓窒扶斯豫防接種 陸軍々醫學校附齋藤三等軍醫正は膓窒扶斯豫防接種の爲め韓國に出張を命ぜられ昨十三日夜龍山に到着せし筈なり

●咸興の蠶業傳習所 咸北咸興にては今回地方費を以て蠶業傳習所を開設し六月一日より開所傳習生三十七名を收容せりと

●頭本元貞氏出發期 入京中の頭本元貞氏は家族同伴來十五日頃出發東京を經て渡米の途に就く由

●武田鑛業所長東上 平壤鑛業所長武田海軍少將は十三日午前九時南大門發列車にて東上したり

●李學相一行の消息 李學相の一行は去る十三日午前十一時十九分定州より安州に向ひたりといふ

▲治外法權▼

ハアミツト、キングドムだ、秘密國だと半島を買被つて居たのは昔の事だ、今ヂヤ臺灣、樺太、否北海道と何の變りも無い▲故伊藤公さへ半島を大した者と思つて居たのでない、其證據には公が始めに作られた統監府官制は統監以外書記官二名通譯官二名と云ふ極めて單純なもので總務長官だの何のと云ふ八ケ間敷いものゝなく、亦た統監には公使位の人物を充てる積りであつた▲トコロが事のハヅミで公自身が統監となることになつた、コウなつて見ると周圍を飾るべき種々の役人が要ることになつた、ソコで總務長官、農商工部總長、警務總長が出來た、書記官も通譯官もダブツてダブル事になつた▲寺內新統監の統監府官制改正は從來複雜であつたものを單純にするのだソウだ、併し發表されて見ぬ中は知れぬ、鬼が出るか蛇が出るか▲土地調査局が經費の都合で成るべく韓人を多く使はぬ方針を立てたのは當然の事だ、一文でも安く揚げるのが帝國政府の得だ▲小學校の運動場へ天幕を張つて呉れと申出てた馬鹿な父兄があるソウだ、子供は昔から風の子、日の子だ、何を苦んで風や日光を避けて子供を柔弱にするか▲先立ての本紙でゴム輪人力が當地に一輛もない事を書いたら此數日來チラホラ見ゆる樣になつた、街路の改築とゴム輪ソウして新統監之れがニユーイポオクの兆か▲街路改築で思ひ出したが南大門外取擴げは大分モメてる樣だ、內部で出來にや民團へやらすが良い、早くせぬと寺內の眼玉を喰ふよ。



請負人の陶汰

▽請負人の資格限定

頃日來日本側官衙は勿論韓國側各部局に於ては從來の請負人仲間に紛れる弊害を一掃する目的を以て其の資格を限定し嚴重なる資格審査を行ひ比較的資產名望を有するものを指定し入札せしむる方針を執り單に經理部先づ率先して之れを實行し度支部、內部、宮內府等又此の擧に倣ひ着々實行しつゝあり此れ寔に賀すべきことなり、從來は世人も知る如く[illegible]產者にして所謂園子金の分配に與らんが爲めに種々惡辣なる手段を弄し[illegible]當に堅實なる請負業者を苦しめたるのみならず延ひて迷惑を顧客側に及ぼしたる例は一々列擧するに遑もなし各部局が資格を限定するの擧に出でしは至當にして寧ろ晩かりしやの感あり然かも此れを耳にしたる土方金筋連は盛んに諸方面に運動を開始し居れりと云ふが[illegible]

隱たる勤王家

[illegible]

里の有志等深く遺憾

[illegible]

親友武藏の豪族

[illegible]

幕府の機密を報告し朝議を資くる事多し

[illegible]

西園寺に重用

[illegible]

横井小楠を暗殺し獄に入る

[illegible]

武士道 司法官 武田耕雲齋

[illegible]

南山で金庫を拾ふ

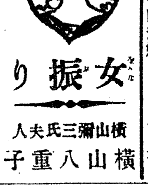
▽數千圓在中の手提金庫

[illegible]

掏摸親分の逮捕

▽電信消の兄弟分

[illegible]北區南森町當時住所不定の太一(二八)と云ふは本邦に於ける大親分として仲間に立てられ[illegible]年仁川署刑事の手にて捕縛[illegible]の兄弟分として其筋の注意[illegible]が洞眼にして而も敏腕なる刑事の爲め遂に看破され引致[illegible]に至り顛末を報ぜんに之よ[illegible]賀縣人富永今朝一と云ふが門[illegible]丸に乘船して安東縣に赴く[illegible]六日午前十一時頃仁川に寄港[illegible]し友人某を訪問すべく上陸し[illegible]場に於て二百六十一圓餘入[illegible]布をば洋服のポケットに入れ[illegible]何者にか掏り取られたるにぞ[illegible]同時頃仁川警察署に其旨訴[illegible]於てか同署刑事は各々手[illegible]犯人捜査に着手し遂く龍山京[illegible]出張して犯罪の手蔓を搜し[illegible]らずも龍山にて吾妻屋と云[illegible]居を營み藝妓四五人を抱へ[illegible]業務に勵み傍ら受負師なりと[illegible]せる前記引田の身邊を探査[illegible]四五名を置きながら半年此[illegible]南兩線を繩張區域に定めて掏[illegible]神出鬼沒巧みに其筋の眼を欺[illegible]行爲を敢てなし剩へ其の兄[illegible]杉山と云ふ者は釜山にて二千[illegible]魔化さんとして其筋の手に捕[illegible]十大邱署にて取調中なりとの[illegible]判明せしかば或は前記犯人も[illegible]らずやとの疑念を挾むに至り[illegible]を進めたる處巣れ引田は先月[illegible]面に視察の名の下に至り本月[illegible]する間もあらせず翌六日家財[illegible]を拾賣し滿洲に引越すとて出[illegible]る由を突き止めしかば益々不[illegible]探からしめ同六日午後一時仁[illegible]行の運船筑後川丸の船客名[illegible]べたるに東京下谷田村次郎同[illegible]良太郎との名義にて乘船せし[illegible]にも同人等らしき點あるより鎭南浦警察署に向け取押へ方[illegible]發せしかば同署員宮原柴崎の[illegible]同船の入港するを俟ちて本船[illegible]人を取調べしに人違ひを口實[illegible]の言を吐かざりけるも前記富[illegible]に罹りし金子は百圓紙幣二枚[illegible]幣六枚餘なりしが如何に所持[illegible]遂を搜査するも見當らざりし[illegible]取調べの結果一枚の百圓札は[illegible]に秘し今ま一枚は手掌に握り[illegible]るを發見したりしかば今は早[illegible]くもあらず一伍一什を自白し[illegible]は仁川署より坂下刑事身柄引取りの爲め同地に出張し去る十一日仁川に連れ歸り目下尙は餘罪ある見込みにて嚴重なる取調べを爲しつゝあるが尙ほ聞く處に依れば同人は箱乘りを最も得意とし一二等客ならでは對手にせず殊に俗に所謂自雷也と稱ぶ絶切りの名人として仲間に其名高く二三年前長崎なる十八銀行本店內に於て某外國人より二萬五千圓の大金を掏摸取りたる事さへあり其妻さだは東京淺草名代の鰻燒屋常盤樓の仲居を働き居たる際關係を結びて一年前夫婦となりたる者な



女振り

横山彌三氏夫人

横山八重子

横山彌三郎君は元日の出尋常高等小學校長で現在は南大門の第二小學校の校長で一般父兄の氣受けもよく又下僚とも折合がよいとの事だ、彌三君も八重子さんも共に山口縣豐浦郡長府の產である、彌三君は明治元年の出生だ、因果と云ふものは爭へないもので本年四十三歳である、八重子さんは高等女學校の卒業生で本年漸と二十八歳、全体日本の夫人は他に年を聞かれると年齢には答へないで「妾、妾はモウれ婆さんですの」と云つて仲々二遍や三遍ぢや云はないで次は「當てゝ御覽遊ばせ」と來る、嫁に貰ふの婿にならうのと云ふ野心があるぢやなし、夫れ程焦らされる弱點はないのだが行き懸りと云ふものは恐ろしいもので散々に油を絞られる、夫人方に對してれ年齢はと聞くのは見合せのことだ、此れは話が傍へ外れたが八重子さんは早い子持ちで長女のはる子さんはれ十二、長男の英勝さんが十、二男の信勝さんが七歳、も一人の女のれ子さんは郷里に御座る、然るにれ年は僅かに二十八、此の勢を以て進まば前途は多望である、れ花はナカ／＼れ得意で御氣象は地味の方だ、彌三君は職掌柄品行方正であるから家庭は勿論圓滿である。

るが今迄で夫が斯かる掏摸の大親分なとは夢にも思はず只だ朝に職人風を裝ひて出づるかと見れば夕には洋服姿の紳士となりて出で行く擧動の啻ならぬを眼人等と共に審しみ居たるのみなりしと

振った大賊の日記

▽取り交したる血判書

本月十日の紙上に西部署の大賊捕縛と題し報導せし大賊福岡縣早良郡原村字七隈千七十番地士族力丸安雄(三二)が本年五月四日以來京仁龍各地に跨り數十箇所を荒し數千圓の金品を窃取し酒色に費消したる事は既報の如くなるが今彼の所持する日記に左の如き記事あり「君の江で一番好きながれりいちやん又も靜子に氣がうつる」「一番で一番いきながら藤子さん私しやうつゝもぬけよ」「八重咲きで一番すけべがれかよさん一番べつぴんが靜子さん」「開進亭で一番親切が花子ちやん私しやあなたにほーみんぐ」又八重咲きの抱へ酌婦岡本かめは其の內特に氣に入り遂に二人の間に夫婦の約束を爲し血判書を綴より安公に差入れあり其原文

血判書

愛媛縣溫泉郡三ケ濱村榮町
四十一番戶
岡本かめ拇印
岩城安夫樣(僞名)

右兩人合意の結果明治四十三年六月三日を以て夫婦約定を取替せし事實正也其外左の件々堅く相守可申候

一今迄肉体の交際せし人と交をたつ事但商賣上は此限不在
二今後如何なる困難あるとも互に苦を見る事
三來る七月十五日を期し同居する事
四互に合意の外此約定を取消さゝる事

右堅く御ちかい申候也

●日日新聞の舟遊會

▽近來稀有の大成功

朝鮮日々新聞社主催の漢江舟遊會は十二日麻浦沖合にて擧行されたり定刻午前十一時京仁龍の來賓數百名は電車終點に集合今井社長等の案內にて大傳馬十數隻に分乘し樂隊船を先頭に會場なる栗島に赴き午後一時ビール、正宗、れでん、うどん、そば、しるこ等の模擬店を開き京龍七十餘名の紅裙酒間を斡旋し寢閑なる頭短艇競漕は開始され來賓は更らに大傳馬船にて江上を遊弋し午後五時一同大滿足にて朝鮮日日新聞社の萬歲を三唱して散會したり眞に近來の壯遊なりき

●使傭人を毆打す

十日夜九時半頃龍山漢江通り一丁目十八番戶土方業大阪生れの岩本藤五郎(三五)が同居人春山進(三二)を折れたる鍬の柄を以て毆打し三十四個所の打撲傷を負はしめ刀傷で無いだけ唄にも成らぬ人騷がせを爲せしが原因は藤五郎が進をして土工韓人夫を監督せしめ居たるに頃ろ人夫の數頓に減じて仕事に手間へする程なるより藤五郎は心配して何故に五月蠅きまで集まり來る筈の人夫が寄り附かぬにやと原因を調べて見しに監督者の進が人夫使ひの亂暴なる爲めと判りしかば藤五郎は進に對して手心して使ふが可しと注意せしに進が何か抗辯したるより喧嘩に成り右の始末を演出したるなりと加害者は憲兵隊に引かれ被害者は病院にて手當中

●惡馬夫を撲くる

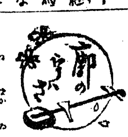
若草町一丁目百二十二番戶請負業梅原太次郎雇人木原市郎次(三五)は本年四月五日より人夫監督者として雇はれ從事中六月十二日梅原が請負たる舊王城建物解除したる村木等を運搬する馬夫が重荷を除き輕荷を積むより之を制したるに肯せずイヌマ、パーサキ抔暴言を吐くより棍棒を以て馬夫金奧成(一九)の頭部を毆打し輕傷を負はせたるより北部署に告訴せられ治療代五十錢で示談濟說諭放還

目と耳

▲歌舞伎座 去る十一日開場したる京都横田商會の活動寫眞は映畫非常に鮮明にして種類も悉く嶄新なるものゝみ他の映畫に比較して東北特別大演習之光景は聊か不鮮明なるも軍隊の行動等は遺憾なく看取せらる就中長谷川大將閣下が白馬に跨り威風堂々たる閱兵式の光景、日本人の見たる京城等は最も目新らしきものと云ふべし

▲御成座 十四日の替り狂言は前「牛若丸鞍馬下り奥州秀衡初髮花」中狂言「長吉殺し」切「蝶花形小坂部館の段」等なりと云ふ

▲京城座 十四日の代り藝題は「新琵琶歌」前編七場十五日は同後編七場



朝寢の時代は過ぎて晝寢時代となりたり何分夜でも晝でも暇さへあれば爲る枕稼業のことながら然りとて寢て計り居ては運動が不足とあつてアバイが惡くなつては一大事宜しく晝寢時間を利用して裁縫でも敎へたら善からうと餘所で二十年も前に實行て試て失策つた奴に一決したりと聞いた女郎連は大に憤慨し左樣なつたらば一同同盟罷尻せんと目下連判狀に血判中の由なり▲京城樓の花子は增本さんが身受けを中止したのは新聞に出されたからだと其の新聞記者を恨み居る由何所の新聞社だか知らんが御要心が肝要▲大桝屋の白糸は前月銀鳥にれ職を剝はれたるより大勉强の結果本月は取り返して大喜び▲同樓の二枚音羽は餘り數でこなしたる爲めボーッとなり八日より新町病院に入院目下治療致し居るがボーッとなる程稼いだ彼れの忠實なるには驚かれる▲第一樓の九重は度々新聞に出される爲め名が賣れたと喜び居るとか▲大桝屋の松葉は仲々溫順で顏もよく客の扱も懇切で晝寢が嫌いで裁縫が好きだ感心だと賞めて與れどの投書があつたから拙者も感心だと褒めて置き升(廓雀)

今日の運勢

六月十四日(舊五月七日)二黑● 大安 庚戌 定 △一白●新事見合せの事 保證受印世話事を禁ず △二黑● 謹愼日なり 目下の者の煩累あり 金錢取引金品授受間違あり △三碧● 齟齬し易き日 創設開始談議團体の事効なし △四綠● 誘惑及證券印章の事注意 遺失の恐れあり △五黃● 整理改革模樣方針替吉 部下の者より煩累あり △六白● 快欣の日 大抵吉 農業鑛業には尤も妙 △七赤● 利福ある日とす但し雇入れ飼畜結婚は見合せの事 △八白● 貸買貸借訂約に吉其他平凡 △九紫● 請願依囑談合に吉 療病衛生に注意の事(本町五丁目三一館判斷)

●天氣豫報

自十三日午後六時 至十四日午後六時

東の風曇少雨

十二日(華氏) 最高溫度 七五、〇 最低溫度 六三、七

제429호 1910. 6. 14.

